

科目名：成人看護学概論	配当年次 1 年	開講時期 1 年後期
単位・時間：1 単位（30 時間）	授業の方法：講義	
担当者：那須 幸子	実務経験のある教員による授業 □	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>基礎看護学概論で学んだ看護の対象と関連させて、成人期にある人の特徴を理解する。さらに、成人期の健康は生活環境、社会生活および加齢現象などの影響を受けることを強調し、健康生活を育む健康行動と、健康生活を支援する環境づくり・ヘルスプロモーションに焦点を当てた看護を学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人看護の役割・対象を理解する。</li> <li>2. 成人期における健康の意味と保健活動の重要性を理解する。</li> <li>3. 成人看護学に活用される理論を理解する。</li> <li>4. 健康レベルと経過別看護の特徴を理解する。</li> </ol>	
授業の計画	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2. 成人と生活 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 成人各期の発達と特徴</li> <li>(2) 成人期の生活の特徴</li> </ol> </li> <li>3. 4 生活と健康 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康</li> <li>(2) 生活と健康をまもりはぐくむシステム</li> </ol> </li> <li>5. 6. 7. 8 成人への看護アプローチの基本 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助</li> <li>(2) 症状マネジメント</li> <li>(3) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係</li> <li>(4) 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ</li> <li>(5) チームアプローチ</li> <li>(6) 看護におけるマネジメント</li> <li>(7) 看護実践における倫理的判断</li> <li>(8) 意思決定支援</li> <li>(9) 家族支援</li> </ol> </li> <li>9 ヘルスプロモーションと看護</li> <li>10 健康をおびやかす要因と看護</li> <li>11. 12. 13 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 慢性病とともに生きる人を支える看護 障害がある人の生活とリハビリテーション 人生の最後のときを支える看護</li> <li>14 さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 新たな治療法、先端医療と看護</li> <li>15 筆記試験及び解説</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論、基礎看護学[4] 臨床看護総論、健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生・[3] 社会保障・社会福祉 医学書院 e テキスト 図説 国民衛生の動向 2023/2024</p> <p>【参考文献】</p> <p>成人看護学概論、リハビリテーション看護、緩和ケア メディカ出版</p>	
履修上の注意事項		

科目名：成人看護学方法論Ⅰ (生命危機にある人の看護)		配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間：1単位(30時間)		授業の方法：講義	
担当者：中条 佳代		実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b> 社会的な責任が要求される成人期にある人が、突然の主要臓器の病変や身体に急激な侵襲を与える治療を行った時の異常の早期発見・回復促進・心理的社会的危機の回避・日常生活行動の支援を理解する。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間が生きていく上での基盤となる生命機能(呼吸・循環・脳神経)のメカニズムを理解し、保持増進のための成人保健活動の重要性を学ぶ。</li> <li>2. 生命維持機能の障害により、生じる症状が成人期にある人の発達課題・自己実現にどのように影響していくのかを理解する。</li> <li>3. 周手術による生体への侵襲が理解でき、侵襲を最小限にし、早期に社会復帰がはかれるための看護を学ぶ。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2. 3. 4 周手術期にある人の特徴と術前・術中・術後の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 手術侵襲による神経・内分泌反応、生体調節機構関連図作成</li> <li>(2) 術後合併症関連図作成</li> <li>(3) 外科的侵襲から回復期の生体反応</li> <li>(4) 術前の看護／術中の看護／術後の看護</li> </ol> </li> <li>5. 6. 7 成人期に発症しやすい呼吸器疾患とその疾病の特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 呼吸困難患者の看護</li> <li>(2) 気胸患者の看護</li> <li>(3) 肺がん患者の看護</li> </ol> </li> <li>8. 9. 10. 11 成人期に発症しやすい循環器疾患とその疾病の特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ショック患者の看護</li> <li>(2) 心不全患者の看護</li> <li>(3) 虚血性心疾患患者の看護</li> </ol> </li> <li>12. 13. 14 成人期に発症しやすい脳神経疾患とその疾病の特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 意識障害患者の看護</li> <li>(2) 頭蓋内圧亢進患者の看護</li> <li>(3) クモ膜下出血患者の看護</li> <li>(4) 神経伝達障害患者の看護</li> </ol> </li> <li>15 筆記試験及び解説</li> </ol>		
成績評価の方法・基準	筆記試験100%		
テキスト	<p><b>【教科書】</b> 系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器、[3]循環器、[7]脳・神経、臨床外科看護総論 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b> 適宜講師より紹介</p>		
履修上の注意事項			

科目名：成人看護学方法論Ⅱ (生体防御を脅かされる人の看護)	配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間：1単位(30時間)	授業の方法：講義	
担当者：丸山 南海 中澤 健二	実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>	
診療看護師・特定看護師・がん専門看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b> 近年は急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の多様化や意識の向上など様々なことが大きく変化している。 それに対応するために、細胞浸潤しやすく、生体防御が脅かされる疾患の特徴を知り、その看護の役割と看護の機能を理解する。さらに終末期にある人の特徴を知り、患者と家族に応じた看護を学ぶ。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 免疫防御機能の低下および悪性新生物罹患時の特徴と、治療・検査の意味を理解する。</li> <li>2. 成人期にある人の生体防御が脅かされたことにより、発達課題や自己概念、身体的・心理・精神的・社会的側面に受ける影響を理解する。</li> <li>3. 成人期の特徴を踏まえ、患者と家族の死の受容に応じた援助や、それまでの生活を尊重した援助の必要性を学ぶ。</li> <li>4. 終末期におけるその人の最期が、人生の終焉にふさわしいとすることができるような看護を理解する。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2 患者の気持ちに寄り添うコミュニケーション</li> <li>3. 4 がん患者に生じやすい症状と看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) がん患者の心理的反応と精神症状</li> <li>(2) 精神症状のマネジメント</li> <li>(3) がん患者に生じやすい身体症状と看護</li> </ol> </li> <li>5. 6 がん患者に生じやすい身体症状と看護 疼痛／呼吸困難／悪心・嘔吐／下痢／便秘</li> <li>7. 8. 9 がん看護 治療を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) がん化学療法を受ける患者の看護</li> <li>(2) 放射線療法を受ける患者の看護</li> <li>(3) 緩和ケア</li> </ol> </li> <li>10. 11. 12 生体防御を脅かされる人の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 感染症／HIV 感染症／敗血症</li> <li>(2) 血液・造血器／白血病</li> <li>(3) 輸血療法</li> <li>(4) 膠原病／関節リウマチ・全身性エリテマトーデス</li> </ol> </li> <li>13. 14 死の意味と受容過程 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人生の終焉にふさわしい看護</li> <li>(2) ホスピス</li> </ol> </li> <li>15 筆記試験及び解説</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験100%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b> 系統看護学講座 成人看護学[4]血液・造血器、[11]アレルギー 膠原病 感染症、緩和ケア、がん看護学、臨床外科看護各論、疾病のなりたちと回復の促進[2]病態生理学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b> 適宜講師より紹介</p>	
履修上の注意事項		

科目名：成人看護学方法論Ⅲ (生涯にわたるセルフコントロールを必要とする人の看護)		配当年次 2年	開講時期 2年前期
単位・時間：1単位(30時間)		授業の方法：講義	
担当者：池田 身佳 徳井 舞		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>	
特定看護師・集中ケア認定看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。			
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>生涯にわたるセルフコントロールを必要とする疾患を持ちながら、社会で役割を担っている成人期の人が、働きながら病気と共存していくために、疾患を適応していく過程とセルフケアを促進するための看護を理解し、社会復帰に向けてエンパワーメント・エデュケーションを学ぶ。</p> <p>さらに成人期に発症しやすい疾患を中心に、事例を活用しながら社会復帰に向けての看護と演習を通して考察を学んでいく。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にみられる慢性的な疾患の特徴を理解する。</li> <li>2. 働きながら病気と共存していくことで、日常生活や仕事及び家業への影響を理解する。</li> <li>3. 慢性的な疾患をもちながら生活している成人期にある人が、早期に社会復帰できるように退院指導及び継続看護について習得する。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2. 3. 4 消化・吸収障害時の看護</li> <li>5. 6. 7. 8 (1)食生活と消化・吸収のメカニズム (2)胃切除後の患者の特徴と看護 (3)大腸切除後の患者の特徴と看護 (4)胆石症患者の看護 (5)肝疾患患者の特徴と看護 (6)消化・吸収障害時の看護 (事例を通して行動計画の立案) (7)事例を用いて退院指導</li> <li>9. 10. 11. 12 内分泌機能障害時の看護</li> <li>13. 14 (1)内分泌機能障害がある人の看護・代謝障害時の看護 (2)甲状腺疾患患者の特性と看護 (3)副腎疾患患者の特性と看護 (4)甲状腺機能低下症の患者の事例展開</li> <li>15 筆記試験及び解説</li> </ol>		
成績評価の方法・基準	筆記試験80%、事例による関連図・計画立案 パンフレット作成20%		
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 成人看護学[5]消化器、[6]内分泌・代謝 医学書院eテキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>適宜講師より紹介</p>		
履修上の注意事項			



科目名：成人看護学方法論V (成人特有の疾病をもつ人の看護)	配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間：1単位（15時間）	授業の方法：講義	
担当者：岡田 歩美 実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。		
実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>		
授業概要	【講義内容】	
目的・到達目標	成人期に多い疾病を持っている人のペーパーペイシエントを用いて、科学的な視点でアセスメントし、健康上の課題に対応する能力を養うため、専門基礎分野・専門分野での既習知識の活用と成人看護学概論・保健、方法論 I～IVで修得した知識を統合して事例展開をする。 成人・老年看護学実習へ反映できるような思考・臨床判断能力について学ぶ。	
	【目標】	
	1. 対象を理解するために必要な学習を理解する。 2. 成人期の特徴および疾病の特徴を理解する。 3. 術後の経過に起こりうる症状や課題を明確にし、それに対応した行動報告書の計画が立案できる。 4. 対象の状態に応じて、臨床判断モデルの視点でアセスメントする能力を養う。	
授業の計画	1. 授業内容説明／事例内容紹介 2. 対象を理解するために必要な学習・知識の確認 3. 4 行動報告書に基づいた演習／観察 5. 情報の説明 6. 7 行動報告書に基づいた演習／観察 8. 筆記試験／まとめ	
成績評価の方法・基準	筆記試験 60%、個人展開の提出物 40%	
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 成人看護学[1]成人看護学総論、別巻 臨床外科看護総論、別巻 臨床外科看護各論、基礎看護学[4]臨床看護総論 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 e テキスト 【参考文献】 事例内容によって異なるため、授業にて提示する	
履修上の注意事項	なし	